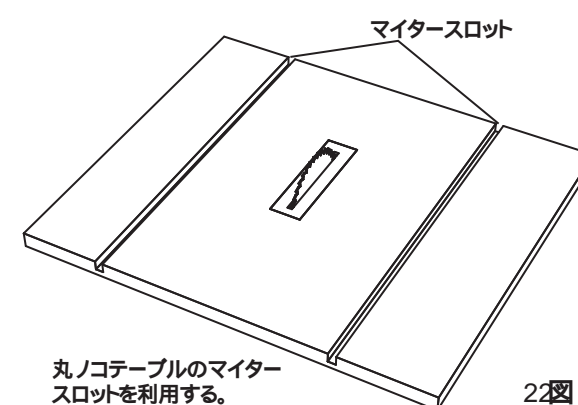
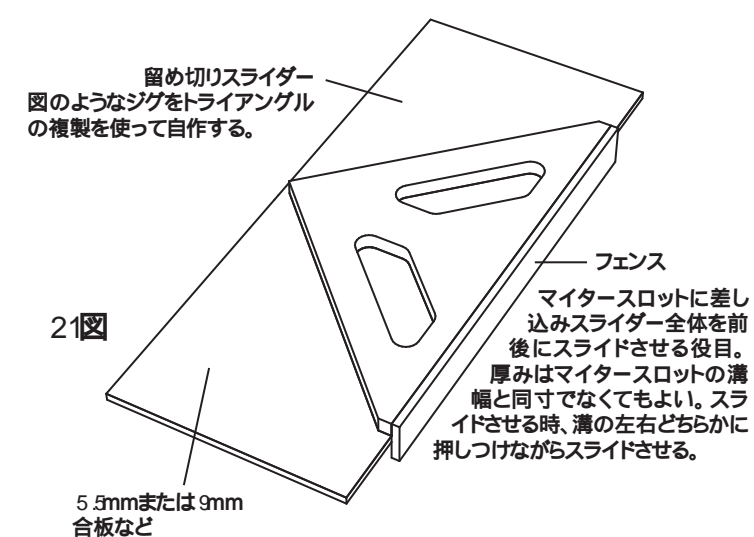
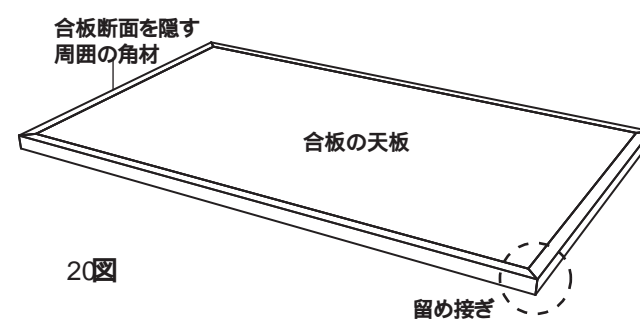


3. 留め切りスライダ

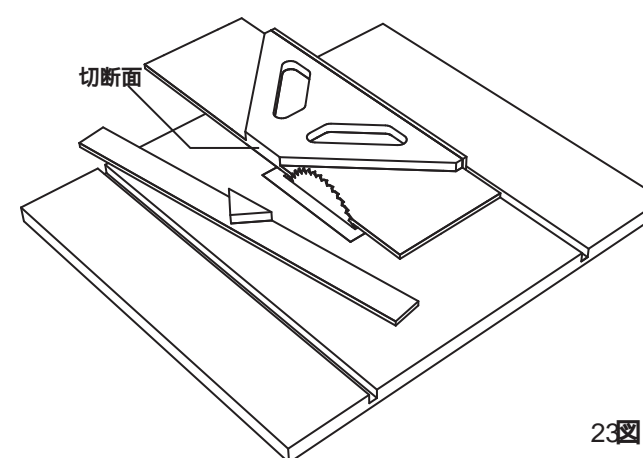
例えば20図のように合板でテーブルの天板を製作する場合、周囲の断面を角材などで隠しコーナーを留め接ぎにすると仕上がりがすっきりします。この場合、角材の留め切りに要求される2つの条件は合板天板の1辺の寸法と全く同じ寸法のところで留め切りし、しかも正確に45°に切ることです。従来の方は角材をやや長めに留め切りし、現物合わせしながら丁度いい長さになるまで切り詰めていくのが一般的です。

21図のようにトライアングルの複製を使い留め切りスライダを作るとこの加工が高精度でしかも簡単にできるようになります。使用する電動工具は丸ノコテーブルです。22図のように丸ノコテーブルのマイタースロットを利用し、前後に動かして使います。(丸ノコテーブルのマイタースロットからノコ刃までの距離によってはこのスライダが使えない機種もあります。)



【製作方法】

1. トライアングルで複製を作ります。複製材の厚みは15mmか18mmがいいでしょう。三角形の内側の開口部も21図のように加工してください。材料板を保持するために指を引っかける時に使います。
2. 5.5mmまたは9mm程度の薄い合板にトライアングルの複製を接着します。板の大きさは長さ約40cm、幅は丸ノコテーブルのマイタースロットからノコ刃までの距離より1センチほど広いものを用意して下さい。
3. 複製の図の部分に細い板(フェンス材)を接着します。板の厚みはマイタースロットの溝に入る厚みにしてマイタースロットに差込んで前後に動かせるようにします。これで留め切りスライダの完成です。
4. 完成した留め切りスライダを丸ノコテーブルで22図のようにカットします。こうして留め切りスライダの上に置いた材料板がこの切断面からはみ出ていればそこで切り落されることになります。



完成した留め切りジグを丸ノコで切り落す。こうすると切断面からはみ出る材料板はここで切り落されることになるので、このことを留め切りに利用する。